

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 学校法人広陵学園広陵高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒731-3164

広島市安佐南区伴東三丁目14番1号

E-mail contact@koryo.ac.jp

Website www.koryo.ac.jp

幼児児童生徒数 男子 825名 女子 507名 合計 1332名

幼児・児童・生徒の年齢 16歳～18歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は「高い志を持ち、自らの夢や目標に向かってチャレンジする生徒を育て、地域社会・国際社会に貢献する有為な人物を育成する」を学校理念としている。このESDの実践を通して、文武両道をめざした特別活動の活性化に努め、国際理解教育の充実・深化を図り、保護者や地域に開かれた学校づくりを努めるための育成を目標とした。

具体的には生徒会活動と国際理解教育を柱にし、①奉仕に係わる活動、②体験活動の推進、③国際理解に係わる教育を行った。

### ①奉仕に係わる活動

生徒会を中心に全校生徒に働きかけ、生徒の自主性と奉仕の心を養うと同時に、課外活動を通じて地域に貢献する目的で行った。様々な活動があるが、主だったものは以下のとおりである。

- ・校外清掃：各学期、学年ごとで通学路周辺を清掃。
- ・オープンスクール案内係：年3回行われるオープンスクールで、生徒会・生徒有志が案内係を務め、1グループ40名程の中学生や保護者を案内しながら学

校生活を説明した。

- ・「アイシティブィエスコプロジェクト(使い捨てコンタクトレンズをリサイクルし、対価をアイバンク協会に寄附する活動)への取り組み
- ・沼田公民館主催「沼田町ふるさと祭り」参加：ダンス同好会を中心に日頃の部活動の成果を地元町内会で披露し、交流を持った。
- ・伴学区町内会連合会主催 平成 29 年度伴学区クリーン作戦(一斉清掃)参加：当校周辺の町内会と連携し、清掃活動を行った。
- ・「広島市成人祭」運営スタッフボランティア
- ・フレンドリーブリッジ(卒業生のグラウンドシューズ・体育館シューズを回収し洗った後、ガンビア共和国・ザンビア共和国・ルワンダ共和国に送るボランティア)に参加。後日、担当者を通じてシューズを受け取ったルワンダ共和国の生徒たちとスカイプで対話をする事ができた。

以上の活動を通して、通学路の清掃活動を継続的に行うことで、奉仕の心や美化の意識、愛校心が高まり、地域の行事に積極的に参加することで、地域住民の方々と良い交流ができています。さらに今年度は、地域ボランティアから広島市のボランティアに参加することで、活動の幅を一層広げることができた。このような活動を続けていくことで、徐々に生徒の方から意欲的に奉仕活動や学校行事に参加する姿勢が生まれてきている。

## ②体験活動の推進

平成 29 年 7 月 5 日に起こった「九州北部豪雨」に対し、高校生でも復興のための貢献ができることを実感させる目的で行った。

まず、生徒会役員が復興支援・および運動支援のための募金活動を計画し、アニメ部が募金を呼びかけるポスター作製を担当した。全体に呼びかけた後、生徒会役員が昼休憩と放課後に交代で募金活動を 2 週間近く行い、6 月に開催した広陵祭(文化祭)で来場者に募金を呼びかけた。この他にも、3 年生がクラスバザーの収益金の一部を寄附し、最終的に募金額 52,786 円を「ユネスコ協会連盟 一杯のスプーン運動」へ、募金額 20,000 円を、10,000 円ずつ福岡県庁・大分県庁の義援金受付宛てに寄附した。

この活動は、生徒が問題解決のために自ら考え、協働する力を養うものであった。生徒が社会に目を向け、問題解決のために自分ができることや、すべきことを積極的に行い、自主の精神を養うことができた。

## ③国際理解に係わる教育

ニュージーランド・クライストチャーチにおいて、語学研修を行い、英語に対する興味付けや力を伸ばすだけでなく、日本とは違う文化や自然を経験することにより、より幅の広い考え方を身につける目的で実施した。

期間中は Middleton Grange International School にて現地のプログラムで英語研修や自然体験アクティビティの他、10ヶ所以上の研修地を訪問した。また現地生徒と交流会も実施した。

本年度からの実施であったが、語学力が向上し資格取得に励んだり、長期留学特進プログラム(1年留学)に応募したりする者もいた。さらには異文化体験や自然経験などにより、大きな視野で物事を考えられるようになった。



①オープンスクールでの説明



①オープンスクール案内



①フレンドリーブリッジ



①ルワンダ共和国の生徒と面談



②広陵祭での募金活動



②広陵祭での募金活動



③ニュージーランドでの活動



③マオリ文化体験

## 2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他 ( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながり尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他（自由記入）	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他（自由記述 放課後の生徒会活動）	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に送られてくる案内やパンフレットを中心に活用</li> <li>・必要に応じて、Web を活用</li> </ul> |
|--|

### ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教科横断的な指導計画を立てていない。
--------------------

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

校内分掌の中にESD推進部を設け、生徒会と国際理解担当を割り当て、活動を行っている。生徒会は生徒会執行部を中心に全校生徒の活動を掌握し、必要に応じて対外的な活動も行っている。国際理解教育においては海外での研修や活動、国内での海外理解教育を統括し、生徒に案内を行い、活動の場を提供している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

校内各分掌で年間指導計画、並びに中間評価から年度末最終評価まで行い、各項目達成度に応じて4段階の評価を行っている。  
各項目で分析と対策を立てることで次年度に引き継げることや改善していくことなどがはっきり掌握できる。ただし人的・金銭的な制限があるため、なかなか改善できていない部分もある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

当校のホームページやパンフレットで紹介や案内をすることで発信の一助としている。例えば海外留学特進プログラム(1年留学)と同じ学校で学ぶことを夏に先に体験できるため、夏季短期プログラムは海外留学特進プログラムへの橋渡し役も担っており、今年度は夏季短期プログラム参加者の中から長期留学への参加者が出た。さらに、短期プログラム参加者がオープンスクールや私学フェスタで体験談を語ってくれるなど、予想以上の効果をもたらしてくれた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

本年度も予算的な関係で全国大会に参加できていない。近隣で行われたESDの研修会に参加するのみであった。地域の多様なステークホルダーとの連携やネットワークは常にオープンな状態である。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールと特段交流を現在行っていない。以前、修学旅行先の沖縄で、広島で起きた土砂災害に対し、新潟の高校と支援の交流を持ったことがあるが、継続的な交流はできていない。しかし、交流に対しては常にオープンである。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

活動内容で記載した個々の活動の成果はあるが、ホールスクールアプローチを展開している他校のような特筆した内容はない。ただし様々な活動を通して生徒の個々の変化を感じ取ることは多分にあり、その方向性をどのように展開していくか、現在模索中である。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

来年度も本年度取り組んだESDに関する内容を精査しながら行っていくが、ESD推進部としては大きな柱を以下のように立てていく。

- ① 学校行事の満足度を高める
- ② 生徒会各委員会の活動を活発にする
- ③ 部活動の参加率の向上を目指す
- ④ 中国大会、全国大会の出場を目指す
- ⑤ 姉妹校との交流事業を模索し、本年度実施した海外プログラムの進化を図り、異文化理解と語学に対する関心を高める。